

地域に根差して工賃アップを目指したい

障害者福祉サービス 多機能型事業所 書写ひまわりホーム（姫路市）



さつまいもの収穫



ブルーベリージャム

経緯

- ・農作業は、施設利用者のペースで取り組め、近隣住民との交流もできるメリットがあるため、施設の設立初期から各種野菜を栽培したり、営農組合から水稻の苗の管理を引き受けてきた。
- ・20年程前から継続してJAバンクから苗の提供を受け、さつまいもの栽培に取り組んでいるほか、令和2年度から姫路市の勧めによりブルーベリーの栽培を始めた。また、令和3年度からは生花卸売市場の勧めにより、流通量が少なく売上げが見込めるリンドウの栽培を始めている。
- ・その他に、生産者の高齢化により竹林の管理が困難となってきた姫路市太市石倉の生産森林組合から竹炭の提供を受け、竹炭を使ったクッキーやパンを試作中。

取組内容

- ・農作物はいずれも近隣の休耕田を借り受けて栽培している。栽培面積はさつまいも10a、ブルーベリーとリンドウ合わせて40a。
- ・さつまいもは、小麦の生地やさつまいもを練りこんだ「おさつパン」に加工し、JA直売所、施設の玄関前や姫路市役所等で販売し、好評を得ている。
- ・兵庫県の「農福連携支援アドバイザー派遣事業」を活用し、デザートショップのパティシエの指導を受け、ブルーベリーを加工してジャムを製造し、JA直売所等で販売している。
- ・リンドウは、JA直売所と市場に出荷。当地方では流通量が少ないので、JA直売所では完売するなど想定以上に売れることもある。

今後の展望等

- ・近隣の農地は、農家の高齢化に伴い耕作放棄地が増えているので、農地を借りようと思えば借りることができる。一方、外部からの受託作業は景気やコロナの影響等外的要因の影響を受けやすい。そういった意味で施設で一貫して取り組むことのできる6次産業化は施設利用者の工賃向上に向けて重要であり、規模拡大しながら引き続き取り組んでいきたい。
- ・将来的には、ブルーベリーをテーマにした観光農園化を進め、そこでカフェを開設したい。また、ネット販売のノウハウを学習して、パンやクッキーなど加工品の販売先を拡充したい。